

令和元年度 第1回

君 津 市 総 合 教 育 会 議 会 議 録

日時：令和元年10月24日 午後1時30分～

場所：議会第2委員会室

## 令和元年度 第1回君津市総合教育会議会議録

1 日 時 令和元年10月24日(木) 午後1時30分開会 午後2時30分閉会

2 場 所 議会第2委員会室

3 出席者 市長 石井 宏子  
教育長 山口 喜弘 教育長職務代理者 伊澤 貞夫  
教育委員 小倉 洋一 教育委員 大野 睦  
教育委員 佐藤 ますみ

4 出席職員 総務部長 小磯 勇二  
企画政策部長 安部 吉司  
教育部長 加藤 美代子  
教育部次長(事)教育総務課長 高橋 克仁  
教育部副参事(事)学校教育課長 大久保 克巳  
教育センター所長 菊地 勝幸  
学校再編推進課長 草苺 祐一  
教育総務課副課長 鈴木 洋和  
学校再編推進課 主査 金田 直樹  
教育総務課企画総務係長 鈴木 孝明

5 議 事 (1) 君津市学校再編第2次実施プログラム(素案)について

6 議題及び議事の概要

### 【次第 1 開会】

加藤教育部長

定刻になりましたので、ただいまから令和元年度第1回君津市総合教育会議を開会いたします。それでは、議事に入ってまいりたいと思います。はじめに、この会議の進行でございますが、君津市総合教育会議運営要綱第3条第2項の規定により、議事の進行は、議

長が指名する職員に行わせることができるとされていますが、市長、いかがですか。

石井市長

加藤教育部長、お願いします。

加藤教育部長

ただいま、市長から指名をいただきましたので、私が会議の進行を務めます。

また、本日の内容は、学校の統合に関する具体的な学校名や実施時期等を示した実施プログラムに関する協議となり、現段階で公になりますと、混乱を生じさせるおそれがあります。このため、円滑な運営に支障が生じる可能性もありますので、君津市総合教育会議運営要綱第4条の規定により、本日の会議は非公開で実施いたします。

## 【次第 2 議事】

加藤教育部長

それでは、次第に則り、進めさせていただきます。議事に入ります。

議事(1) 君津市学校再編第2次実施プログラム(素案)についてを議題とします。

事務局より、説明します。

草苺学校再編推進課長

それでは、学校再編第2次実施プログラム素案について説明させていただきます。

なお、これまでの確認も含めてお話をさせていただきますので、以前の説明と重複する部分があるかと思いますが、ご了承ください。

まず、学校再編の目標となりますが、本市の児童生徒数は、現在ピーク時の半数以下となっております。これからの子どもたちに、どういった学校、地域を残していくのか、今まさに考えていく必要があるため、学校再編に取り組んでおります。

我が国における学校は、江戸時代の寺子屋や藩校から始まり、今日まで社会の形成者としての人づくりを担い、長い歴史によって築かれてきました。その間、高度経済成長、その後の少子化など、社会情勢の大きな変化や時代に求められる教育内容等により、その時代に合わせた教育改革や学校の新設や統合などの学校再編も行ってきました。

現在、学校や子どもたちを取り巻く教育環境や社会環境が、複雑化・多様化しています。

そのような中、子どもたちが変化の激しい社会の中で、困難を乗り越え、主体的に生きる力を身に付けることができるよう、学校再編に取り組むべき時期であると考え、取組を進めております。

取組のコンセプトは、活力ある魅力的な学校づくりを目指すこと。学校の適正規模・適正配置を推進すること。時代にあった新しいタイプの学校・カリキュラムを検討すること。

これらを踏まえて、最終的には、子どもたちにとってよりよい教育環境を目指し、学校の活性化を推進することを目指すものです。

また、子どもたちにとってよりよい教育環境を目指すためには、子どもたちが一定の規模の集団の中で、多様な考えに触れ、互いに認め合い、協力し合い、切磋琢磨することが必要であると考えています。

国では小学校、中学校ともに12から18学級を標準としていますが、国の手引きにも地域の実情に配慮をしてということが示されており、本市の適正規模を、小学校では、12から18学級、1学年あたり2から3学級。中学校では、6から18学級、1学年あたり2から6学級としました。社会性を養うとともに、多様な考えに触れ、個性や能力を伸ばすことが期待できるよう、また、より豊かな人間関係を築けるという面においても、クラス替えができるというのは大きいことから、このように定めております。

さらには、学級数によって教職員が配置されることで、経験を多く積んだ職員、若い職員などが互いに指導方法を学び合うことや、組織的に指導にあたることは、学校運営上でも必要であると考えております。

そして、今回市街地を対象とした第2次のプログラムを進めるものになります。

小学校では、八重原小学校、大和田小学校、坂田小学校、北子安小学校及び外箕輪小学校が、適正規模を満たしていない、クラス替えができない状況で、例えば運動会の時など、単学級の場合ですと、同じクラスでも2色に分けて行うといったかたちになります。なお、クラス数については、小学校、中学校ともに、各学校の実情や裁量において、教務主任の先生を学級担任として兼ねるなどの工夫をして運営している状況があります。

中学校では、全校本市が定める中学校の適正規模を満たしておりますが、国の基準を満たしているのは、君津中学校だけとなります。

次に、これまでの再編の経緯ですが、学識経験者、地域関係者、保護者、教育関係者で構成される、学校再編有識者会議を立ち上げ、基本方針についてご意見をいただきました。

そして、学校再編の憲法ともいべき学校再編基本方針を平成27年10月に策定いたしました。そして、有識者会議、地区説明会や保護者アンケート、パブリックコメントなど、多くの方々から幅広いご意見をいただき、それらを参考に、平成28年3月に学校再編基本計画を策定いたしました。この基本計画は、学校再編における2025年度までの基本的な考え方、学校活性化のための特色ある教育の具体策、更には既存施設のリノベーションなどを示しております。

そして、統合対象校等の具体的な方向性を示した学校再編第1次実施プログラムを平成29年1月に策定いたしました。そして、統合を具体的に進めていくための組織として、統合準備室を設置し、学校、保護者、地域とともに統合に向けた準備を進めております。

市街地の再編は、学区の見直しも考えており、再編が複雑であることから、説明会だけでなく、保護者からアンケートを取ってほしいという要望に応え、保護者アンケートを実施しました。そして、昨年度、5回目となる説明会を開催し、丁寧に意見聴取してまいり

ました。このように、学校再編は、地区説明会や保護者アンケート、市議会、教育委員会会議など、様々なかたちで意見を聴取しながら進めてまいりました。

第4回目となる説明会では、こちらにあるとおり、君津地区の現状と課題を共有いたしました。いただいた主な意見ですが、「子どもたちの教育環境を考えると、クラス替えができることは大切」、「運動会のことも考えると3色にして欲しい」、「通学距離や安全面が重要だと思う」、「学区の場所によっては、柔軟な対応が必要だと思う」、「先生の目が行き届くので、現在の少人数の学校生活に満足している」、「何よりも、子どもたちのことを考えて進めて欲しい」というご意見をいただきました。

そして昨年度、第5回目となる説明会では、こちらにあるとおり、構想案ということで、統合や学区見直しのパターンの例示、保護者アンケートの結果、今後の進め方について、説明いたしました。いただいた主な意見につきましては、「クラス数があることで、教職員も増え、子どもだけではなく職員同士も磨きあえる環境となる」、「色々な意見などがあるとは思いますが、再編をしっかりと進めて欲しい」、「再編はわかるが、子どもの安全に配慮して欲しい」、「統合だとしても、地区を割るようなかたちはやめて欲しい」、「跡施設はどのようにしていくのか」というご意見をいただきました。

それでは、第2次実施プログラム素案についてご説明いたします。

まず、統合です。豊かな人間関係を築き、社会性を養い、切磋琢磨し、教職員同士も磨きあえるための教育環境を整えるためには、やはり適正規模が必要であると考えます。統合校ですが、大和田小学校と坂田小学校を統合し、使用校舎は坂田小学校を予定しております。また、実施年度については、これまでの地区説明会などでお約束したとおり、第1次実施プログラム終了後の令和4年度を予定しております。

大和田、坂田地区につきましては、小・中学校、高等学校、認定こども園、私立幼稚園や基幹産業などが集まっており、連携が図りやすく、新たな教育を展開しやすい立地でもあり、学園の丘のような、文教エリアとして学校再編に取り組んでまいります。

続いて、特色ある学校づくりについて、ご説明いたします。第1次実施プログラムでは、学校運営に関わる教育システムである小中一貫教育とコミュニティ・スクールを導入いたしました。第2次実施プログラムでは、基本計画にもあるとおり、実施したもののフィードバック及びキャリア教育の導入を予定しております。

キャリア教育ですが、周西中学校区を予定し、令和3年度からの実施を予定しています。既に高校と連携を進めており、また、来年度開園となる認定こども園との連携カリキュラムも取り組んでいきます。ほかにも、様々な機関と連携を図り、立地を最大限に活用してまいります。取組の例になりますが、子どもたちが、働く現場の見学をしたり、逆に、企業の職員の方に学校へ出向いていただき授業を行っていただくなどの取組があります。

続いて、小中一貫教育ですが、学校が隣接しており、統合によりこれまでの連携から更なる発展が可能と考え、周西中学校と統合後の小学校を予定しております。周南小学校、周南中学校のノウハウを活用し、小中一貫教育校として、児童生徒の育成に取り組み、高

校も隣接しておりますので、小、中のみならず、キャリア教育と複合的に取り組むことで高校との連携強化を視野に入れてまいります。

本市における小中一貫教育では、小・中学校全ての教員が、義務教育を終える中学校3年生の15歳の姿を目指し、9年間の学びと育ちを通して、一緒に子どもたちを育てていくという共通認識のもと、連続性のある学習指導や生徒指導を行い、子どもたちの成長を促してまいります。

この取組は、小学校6年生が主となることで、更なる効果として中1ギャップの解消になります。例えば、小学校から中学校に進学すると環境が変わると思いますが、教職員が相互の乗入れ指導を行うことで、先程説明した専門的な学習や、多面的な環境に加え生活面が連続することにより、小学校から中学校に進学したときに6年生の時に教えてくれた先生がいたり、授業の進め方も同じものとなります。周西中学校区においては、様々な可能性があり、新しい教育を展開していくことから、このような構想を持って、取組を進めてまいります。

確認となりますが、統合については、大和田小学校と坂田小学校、実施年度は、令和4年度。特色ある学校づくりについては、キャリア教育、小中一貫教育を周西中学校区にて、また、コミュニティ・スクールを上総小櫃中学校に導入し、これまでの地域文化を広めてまいります。

最後に、第3次実施プログラム以降の取組について、ご説明いたします。今回は第2次ということで、今年度始め頃の発表を予定していたところ、市内への開発状況等を注視する必要があったため、この時期となりましたが、統合への影響は出ておらず、計画の想定内で進んでおります。

また、これまでのプログラムでは対象とならず、適正規模を満たさない学校については、第3次にて取組を進めます。八重原小学校、北子安小学校、外箕輪小学校の3校が、第3次の統合対象となります。魅力ある学校づくりを進め、統合だけではなく、これらの内容を複合的にセットで考えて、最短で取り組んでまいります。そして、現在検証を進めております第3次実施プログラム素案を来年度の公表を目指し進めてまいります。

そして、前回、第5回地区説明会でお示ししたものなどですが、南子安小学校と北子安小学校で統合のみのパターン。北子安小学校の統合先を複数にするパターン。八重原小学校と北子安小学校で、統合のみのパターン。八重原小学校と外箕輪小学校で、統合のみのパターン。最後に、複合的な要素として、北子安小学校の統合先を複数にするパターンに、南子安小の一部の学区を外箕輪小に変更するパターンになります。

このように、複雑な面もあることから、その手法を精査し、第2次ではなく、第3次で取組を進めてまいります。

子どもたちにとってよりよい教育環境を目指すため、皆さんと一緒に考えていきたいと思っておりますので、この後の質疑で、どのように考えているのか、ご意見を伺えれば幸いです。以上で説明を終わります。

加藤教育部長

ただいま、事務局からの説明が終わりました。それではお一方ずつご意見を頂戴したいと思います。伊澤委員いかがでしょうか。

伊澤委員

統合は、子どもたちにとって、新しい学校や新しい人間関係等、様々な変化を伴うので、新しい気持ちでスタートできるよう校舎の改修などハード面、ソフト面でよりよいものにしていただきたいと思います。将来を担う子どもたちのため、しっかりと整備をお願いしたいです。

加藤教育部長

伊澤委員からご意見をいただきました。これについて事務局、いかがでしょうか。

草苺学校再編推進課長

統合になりますと、新しい校舎を期待する市民が多いと思いますが、学校再編基本計画では、既存施設の有効活用が基本です。第1次実施プログラムの対象校についても、統合校にふさわしい大規模な改修・改造工事等を実施していますので、第2次についてもよりよい教育環境となるように取り組んでまいります。

伊澤委員

第2次実施プログラムでは、大和田小学校及び坂田小学校の2校が統合とのことですが、市街地にはまだ適正規模を満たしていない学校があります。今後のプログラムでは、そうした学校を適正規模にしていくこととなりますが、通学区域の見直しを伴うので、様々な面で大変な作業になると思います。子どもたちによりよい教育環境を整えるためにも学校再編は必要だと考えておりますので、できる限りスピード感を持って対応していただければと思います。

色々な考えがある中で大変だと思いますが、できるかぎり早く子供たちが、よりよい環境の中で教育が受けられるようにしていただければと思います。

草苺学校再編推進課長

伊澤委員の言われるとおり、適正規模を満たしていない学校があり、八重原小学校、北子安小学校、外箕輪小学校の適正規模化は、喫緊の課題であると捉えております。

しかしながら、学校の配置を考えますと、単純に統合ではなく、通学区域の見直しも必要になってくると思われるので、児童生徒の推移や学校施設の状況、通学路の状況など複合的に検証して進めてまいりたいと考えております。

通学区域については、地域のことを肌で感じている学校現場の声を聞くために、説明会

の開催やパブリックコメントの実施など、様々なチャンネルを使って全体の意見を集約しながら慎重に進めまして、来年度中には、第3次実施プログラム素案を公表できればと考えております。

加藤教育部長

続きまして、大野委員いかがでしょうか。

大野委員

大和田小学校及び坂田小学校の統合により学区が広がります。広がることで、通学区域も広がるので、その通学時等の安全面については、学校だけでなく君津市全体で取り組んでいただければと思います。

加藤教育部長

大野委員からご意見をいただきました。これについて事務局、いかがでしょうか。

草苧学校再編推進課長

大和田小学校及び坂田小学校の統合は、両校とも学区のほぼ中央に位置しており、通学する方向は今までと変わりはないと考えております。一部通学路ということでは、変更も考えられますが、学校と連絡を密にとるとともに、通学区域審議会や関係機関の意見をもとに、安全安心な通学を目指して進めてまいりたいと思います。

加藤教育部長

続きまして小倉委員いかがでしょうか。

小倉委員

統合については、統合地区にお住まいの地域住民や保護者の方々に丁寧な説明をお願いしたいと思います。子どもの数が増えて新しい学校が開校する場合は、まちが発展するような前向きな気持ちでよいのですが、今回のように統合ということになると、本来であれば統合で適正規模になって、よりよい学校になるのですけれども、地域住民や保護者の方の中には、学校が減ることについて、好ましくない印象を持たれる方もいるかもしれませんので、地域住民や保護者の方へ、前向きな気持ちになれるように丁寧な説明をお願いしたいと思います。

加藤教育部長

小倉委員からご意見をいただきました。これについて事務局、いかがでしょうか。

草苺学校再編推進課長

これまで、学校再編においては、平成27年10月から5回にわたり説明会を開催してきました。説明会を開催する度に丁寧な説明を心がけ市民にご理解いただくとともに、よりよいプログラムにするために多くの意見をいただいておりますので、今後も地区説明会だけでなく、地域やPTA等からの要望があれば、積極的に個別の説明会も開催しまして、市民のご理解をいただけるように進めてまいりたいと考えております。

加藤教育部長

続きまして、佐藤委員いかがでしょうか。

佐藤委員

大和田小学校と坂田小学校との統合について、現在、日本製鉄大和田社宅を建て替えていると伺っています。適正規模を考えた場合に、統合に影響はないのですか。

加藤教育部長

佐藤委員からご意見をいただきました。これについて事務局、いかがでしょうか。

草苺学校再編推進課長

社宅の建替えは、今年度当初に情報があり、企業の方と話をさせていただきまして、結論として影響はないと判断いたしました。老朽化した社宅を新築し、現在社宅にお住まいの方が、引き続き居住することを想定していると伺っています。新築ですので一時的に増加することも考えられますが、将来的には安定するものと予測しております。

加藤教育部長

それでは、山口教育長、いかがですか。

山口教育長

第1次実施プログラムの進捗と第2次実施プログラムの素案について、協議させていただいております。そもそも、学校再編は、本市の学校の小規模化が発端でございまして、私4年半前に就任したのですけれども、全ての学校を訪問しました。そして感想として思ったことは、10年は遅れており、スピード感をもって進めていかなければならないと思った次第であります。

先程もありましたけれども、教育の使命として子どもたちが社会人として、資質を身に付けて、幸せな人生を送ってもらうということでございます。そのためには、ある程度切磋琢磨できる学校規模が必要であると考え、統合あるいは様々な再編メニュー、第1次実施プログラムでは、小中一貫校、コミュニティ・スクール、これは学校制度ですけれども、

そうした展開をしてまいりました。活力ある学校づくりをしようということでスタートしております。

第1次実施プログラムでは、複式学級及び単学級の多い中山間地域が中心だったのですが、第2次実施プログラムでは、都市部、市街地となります。社会が常に変化する中ではございますが、教育の安定性にも配慮しつつ、学校再編、不断のテーマだと考えておまして、当初から申し上げていることではございますが、君津市内どこに住んでいても、等しく質の高い教育、学校生活が送れるということが理念でございます。ですから、不断のテーマである学校再編を今後も進めていきたいと考えております。

第2次実施プログラムは、当初地区説明会では今年の春頃までと、市議会では、本年度の早い時期にということで話をしてまいりましたが、既に地区説明会から1年経過しております。スピード感を持って進めてきたのですけれども、最近少しスピード感が鈍ってきておりますので、改めて取組を進めてまいりたいと考えております。

また、次の第3次実施プログラムも視野に入れております。全ての学校が学校再編の対象校ということで、統合だけではなく、色々なメニューがありますので考えてまいりたいと思っております。

学校再編というのは、ヒト・モノ・カネ、この3点がセットにならないと成り立たないものでございます。そして、跡施設の活用についても取り組んでいく必要があります。本日、企画政策部長も出席しておりますが、第1回目の説明会から跡施設の活用とか地域の活性化という観点からのご質問が地域住民から多かったということ踏まえ、そういうことを念頭におきながら、今後も市長部局と一緒に取り組んでいきたいと考えております。以上であります。

加藤教育部長

ほかに、ございませんでしょうか。はい 伊澤委員。

伊澤委員

特色ある学校づくりですが、その学校に則した学校づくりを積極的に進めてもらいたいと思います。しかし一方で、教員の多忙化ということも叫ばれています。第2次実施プログラム素案によると、周西中学校区でキャリア教育、小中一貫教育の2つを進めていくとのことですが、少し苦しいのではないかと思います。どうでしょうか。

加藤教育部長

これについて事務局、いかがでしょうか。

草苺学校再編推進課長

キャリア教育、小中一貫教育の2つを周西中学校区にさせていただいたのは、両校の立

地やこれまでも既に連携をしているという実績を考慮し、その更なる発展を考えているところでございます。

同じ学区で2つになりますが、キャリア教育を令和3年度、小中一貫教育を令和6年度と準備期間を設けておりますので、学校の負担とならないよう進めてまいりたいと考えております。

加藤教育部長

ほかに、ございませんでしょうか。それでは、市長、全体的な部分でいかがでしょうか。

石井市長

皆さん、貴重なご意見ありがとうございます。

まず、先程大野委員からございました通学路ですけれども、市長部局としても、連携を取りながら安全対策をしっかりとさせていただきたいと思っております。これは大和田小学校及び坂田小学校に限ったことではなく、他の学校も全てでございます。しっかりとやらせていただきたいと考えております。また、現状様々な点検活動など行われておりますので、それに対する対応策というのも速やかに行わせていただきたいと考えております。

第2次実施プログラム素案につきましては、おおむね理解をいたしました。前提を申し上げますと、教育というのは人口減少が進み地方創生が叫ばれる中、教育によって選ばれるまちになっていくということは、非常に重要なことだと考えております。

地方創生の大きな柱となり、教育によって、まちがつくられてくるものと考えますので、非常に重要な案件でございます。そして、それを達成すべく子どもたちの教育を最優先に考え、こうした学校再編のプログラムが進んでいるものと理解しておりますので、ベストと言える位の気持ちで進めていただければ幸いです。

そして、先程教育長からもお話がありましたけれども、よりよい教育環境を整えるためにも、スピード感を持って進めていただきたいと思います。そして、いよいよ君津地区を対象としたプログラムになりますけれども、子どもたちに負担のかからないように進めていただきたいと思います。

また、パブリックコメントの実施や地区説明会を開催するというところでございます。私、以前よりお話をさせていただいておりますが、市民との対話を大切にしたいと考えておりますので、今まで以上に市民との対話を大切にしながら、理解を得られるよう丁寧に説明をしていただきたいと思います。全ては子どもたちのために、よりよい環境づくりが行われるということで、ご理解をいただけるようお願いしたいと思います。私もといたしましても、まちづくりの観点に学校再編は欠かせないものとなりますので、学校再編によって、よりよいまちづくりを進めてまいりたいと思っております。

そして、跡地利用。そう簡単なことではないと考えております。これから、学校再編が進み多くの跡施設が発生します。こちらについてもスピード感を持って、対応していかな

ければなりません。非常に大きな課題だと認識しておりますので、全庁挙げて取り組んでまいりたいと考えております。

今回の大和田小学校と坂田小学校につきましても、空いた施設をどうするのかという話になってまいりますので、市民の皆様とも十分に対話を重ねながら有効活用について考えてまいりたいと思います。それにあたっては、現在第3次まちづくり実施計画が進められておりますけれども、それにとどまることなく、次期総合計画なども視野に入れながら、全体的に構築をしていきたいと考えておりますので、皆様方にも、これまで以上のご協力をいただきたいと思います。どうぞ、よろしく申し上げます。

最後になりますが、市民の皆様のご理解を得て、プログラムに磨きをかけるとともに子どもたちにとってよりよい教育環境となるよう、今後とも、学校再編を着実に推進していただければと思います。以上です。

加藤教育部長

ありがとうございました。ただいま皆様からいただきましたご意見等を踏まえまして、取組を進めさせていただきます。

また、学校再編に係る諸条件の整備等につきましては、今後も総合教育会議で協議、調整させていただきたいと考えております。

### 【次第 3 その他】

加藤教育部長

それでは、続きまして、次第の3その他報告事項「君津市立中学校におけるいじめ重大事態について」を事務局より報告いたします。

事務局から経過を報告し、情報を共有するとともに、今後の対応について協議・調整を行った。

### 【次第 4 閉会】

加藤教育部長

本日の会議はすべて終了いたしました。閉会にあたりまして、市長からご挨拶をお願いします。

石井市長

本日は、慎重なるご協議をいただきまして、誠に、ありがとうございました。これからは教育長をはじめ、教育委員の皆さんとより一層連携協力しながら、よりよい教育を推進

してまいりたいと考えております。今後も、皆さまのご理解、ご協力をお願い申し上げます。閉会にあたってのあいさつといたします。

また、台風15号、19号と大変な被害があらうかと思いますが、皆様に心からお見舞いを申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。

加藤部長

以上をもちまして、令和元年度第1回君津市総合教育会議を終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。